



欧州ラドン療法研究会

臺北温泉祭り・日台温泉勉強会レポート

2024年10月31日・日台温泉勉強会開催報告

「第1回日台温泉勉強会を開催しました」

@「台北市 台北自来水事業処陽明営業分処」



10月31日、台北市内の温泉部門を統括する陽明山事業所において、「第1回日台温泉勉強会」を開催しました。北投石の故郷である北投温泉の泉源は、全ての事業所が管轄制御しています。

台湾では温泉を科学的な研究対象としての分科会が成立していません。そのため、台湾での定期的な学術交流を目指し、温泉勉強会を立ち上げました。その中心になるテーマはラジウム温泉療法です。今回はそれぞれの自己紹介も兼ね、各自の研究内容を発表していきました。日本からは、早稲田大学名誉教授の宮崎正己先生、尚絅学院大学教授の斎藤敬先生、明治大学の大学院生らが参加して下さいました。台湾からは、台湾經濟部水利署、台北市水道局、嘉南薬理大學教授の甘其銓先生、南華大學教授の林群智先生が参加下さいました。当日は季節外れの猛烈な台風下での開催となりましたが、何とか無事終える事ができました。参加を予定していた台湾の学生も8名ほどいましたが、来年に持ち越しです。しかし、温泉に関連する行政と学術の面々が一堂に会し、温泉をテーマにした勉強会が開かれたのは、台湾では初めての出来事になった様です。これを機に、台湾との学術交流をより深めていきたいと考えております。大きな成功事例になったと考えています。



今回行った勉強会の内容は以下になります。①温泉をテーマにした学術交流の意義提案、②日本の温泉法と療養泉の分類、③欧州でのラドン温泉療法、④台湾での温泉研究の現状報告、⑤当研究会で行ってきた北投温泉のラジウム濃度計測報告などです。これからも毎年行われる臺北温泉祭りの機会を活用し、様々なテーマで交流を深めていきたいと考えております。皆様の参加も広く募集しております。

さて、台湾の学術活動に力を入れているのには2つ理由があります。1つ目は、この研究会は多国籍におけるラドン療養効果を実証していく目的で結成したこと。2つ目は、オーストリアの研究機関との連携に、日台温泉研究が応じたいこと、などです。病院で活用される欧州のラドン温泉に対し、日台のラドン温泉は日常使いに留まっています。これらの接点をより強固なものにすることで、皆様の活動を学術的に証明し、後ろ盾になっていきたいと考えております。



また、台湾では近年、北投石を利用した健康産業の開発を進めて行こうとの動きがあります。そのため、これらを具体的に保証する学術的な背景の構築を急いでいる様です。この情報がどれだけ現実的なものかは計り知れませんが、当研究会はこの動きに対して、受け皿になれる様、先手を打って行こうと考えております。この夏、東京の台湾観光協会の会議室で北投石を利用した小さな見本市が開催されました。内容は当研究会会員の皆様には遠く及ぶものではありませんでしたが、非常に大きなチャンスを感じております。

2024年11月1日・北投温泉会議報告

「台湾アジア太平洋国際温泉観光協定例総会」

@「台北市 新北投温泉 水美温泉会館」



11月1日、台北市最大の温泉地である新北投温泉において、「台湾アジア太平洋国際温泉観光協会定例総会」が開催されました。今期は、台風の影響もあり、参加者が十分に揃わなかったことから、予算内容の確認をすることで総意をまとめるに留まりました。当研究会は今期も名誉会員の立場を拝命いたしました。北投石の故郷である臺北温泉祭りにおける理事としての立場は広く皆様の活動にもお役立て頂きたく存じます。左画像は、現台北市市長の蒋万安さんです。蒋介石の曾孫でもあります。これから台北市との文化的交流も視野に入れ、活動を深められたらと考えております。

2024年11月2日・台湾商店街総会

「台湾全国商店街協会立上げ総会・表彰式」



11月2日、台北市の龍山寺近郊のシーザームトロ臺北ホテルを貸し切る規模で、「台湾全国商店街協会」の総会立上げ式典が執り行われました。同時に、地域商店街発展の貢献に対する表彰式が行われました。臺北市が他の市町村の商店街理事会を表彰するという不思議なものでした。売上が向上した商店街には、行政側から助成金が捻出される独自の仕組みがある様です。台湾の商店街や夜市が賑やかな雰囲気を感じるのには、このような背景も有るのかとも思いました。また、台湾各地の参加者からは、日本からの商材を常に求めているとの声を多く聞きました。特に、健康食品を中心とした健康産業への注目が大きい様です。台湾の好景気も同時に感じました。

2024年11月2日・臺北温泉祭り

@「台北市 MRT 新北投駅周辺」



11月2日、異例の台風襲来によって開催が延期された臺北温泉祭りが、11月午後から開催され、翌2日に本祭が開かれました。今回日本から紹介されたのは、山形県米沢市の花笠まつりでした。地元観光協会の皆様に加え、山形大学の花笠サークルの参加も加わり45名の大所帯での披露でした。この臺北温泉祭りの目的は、大きく2つです。1つ目は、新北投温泉街のホテル食事券のセール販売。2つ目は日本旅行を控えた台湾人が、温泉情報を求めてやってくる場になっていることです。台湾にも多くの旅行博が開催されていますが、個人に直接観光案内ができるイベントはここだけです。その為、多くのインフルエンサーもやって来ます。19年から参加している当研究会の存在も少しずつですが認知度を深めています。今年は、臺北薬剤師協会から問い合わせを頂きました。

2025年に向けて



当研究会の臺北温泉祭りへの参加は、2019年から始まりました。今では名誉理事の役をいただくまでになりました。さて、現在台湾での活動は、このイベントを介して台湾經濟部、臺北市水道局との勉強会立ち上げまでに至っています。この延長で、北投温泉の源泉である地熱谷のラジウム濃度調査を認められるようになりました。定期的な調査は台湾国内でもありません。これらを続けていく事で、日台での研究成果による、欧州ラドン療法協会(EURADON)と連携を目指します。また、台湾旅行協会に所属している土産屋協会から北投石を利用したお土産の提案を求められています。これらの期待に具体的な回答ができる様、皆様のご意見ご協力が頂ければ幸いです。